

ジュリアード弦楽四重奏団のメンバー交代について

ジュリアード弦楽四重奏団は、2018年9月から第1ヴァイオリンにアリータ・ズッラを迎えます。現在、第1ヴァイオリンを務めるジョセフ・リンは2017/2018シーズン終了後に退団。退団後も、ジュリアード音楽院での指導は続けます。

以下、2018/2/22にジュリアード音楽院で発表された、同団のメンバー交代についての声明をまとめます。

ニューヨークジュリアード音楽院は本日、同院の卒業生であるギリシャ人ヴァイオリニスト、アリータ・ズッラがジュリアード弦楽四重奏団（以下 JSQ）へ2018年9月に加入すると発表した（2018/2/22）。2017 / 2018シーズンをもって退団するジョセフ・リンと交代するもの。リンは第4子の誕生を機に家族とより多くの時間を過ごしたいとの理由から今回の決断に至った。6月のJSQシーズン終了後もジュリアード音楽院のヴァイオリン及び室内楽の教師としてはこれまでと変わらず指導にあたる。ズッラもまたロナルド・コープス（第2ヴァイオリン）、ロジャー・タッピング（ヴィオラ）、アストリッド・シュウィーン（チェロ）と同様、クアルテットの指導陣に加わる。ズッラはこれまでソリストとして、また室内楽奏者としてアメリカ合衆国、ヨーロッパ、カナダ、アジア各国で演奏活動を展開。リンカーン・センターのチェンバー・ミュージック・ソサエティ II に選出され、定期的に数多くの著名アーティストと共演。またイスラエルのテルアビブ音楽院で行われている若手ヴァイオリニスト育成ワークショップ、パールマン・ジェネシスプロジェクトの芸術監督を務める。

ジュリアード音楽院のプレ・カレッジならびにパールマン・ミュージック・プログラムの卒業生でもあり、師であるイツァーク・パールマンの厚い信頼を得て現在ではアシスタントとしてジュリアード音楽院とプレ・カレッジの両方で後進の指導に当たっている。JSQでは、2016年9月に加入したシュウィーンに続いて2人目の女性メンバーとなる。

ジュリアード音楽院学長ジョセフ・W・ポリシは今回の発表にあたり次のように述べている。「アリータ・ズッラをジュリアード弦楽四重奏団の第1ヴァイオリニストとして発表する運びとなり、誇らしさで胸が高鳴ります。彼女はプレ・カレッジの生徒から始まって音楽院学生、そして貴重な指導陣の一員と成長し、ついに伝統あるJSQのメンバーとなったのです。1946年の創設以来、歴史を刻んできたJSQは、これからも我が校の学生、そして世界中の音楽家や音楽愛好家に影響を与え続けることでしょう。退団を決めたジョセフ・リンにも感謝を伝えたいと思います。これまで素晴らしい芸術性をもってJSQを率いてくれました。引き続きジュリアード音楽院の指導メンバーとしての大いなる活躍を期待しています」。

新メンバーを迎える3人からは次のような期待の言葉が寄せられている。「ジョー（ジョセフ）に対しては、これまで一緒に過ごした素晴らしい時間に感謝し、ご家族みんなの幸福を祈っています。そしてアリータには心を込めてようこそと歓迎の意を表します。情熱的な音楽家である彼女に期待しています。JSQの一員となることに同意したアリータが見せてくれた熱意、その前向きな姿勢を、私たちは心から嬉しく思っています。ヨーロッパ、アジア、北米の演奏旅行に向けて彼女と共に音楽づくりを始めるのがとても楽しみです」。

ジョセフ・リンは JSQ での年月をこう振り返る。「ジュリアード弦楽四重奏団と一緒に演奏してきたメンバーたちには永遠に、心からの感謝を捧げます。豊かな芸術性を持ち才知溢れる、素晴らしい人々です。彼らと共に深遠なる音楽の美を追求するという体験を通し、私は常に精神を鼓舞され、同時に謙虚であることを学びました。3人の息子、そして新しく生まれた娘の父親である私にとって、ジュリアード弦楽四重奏団の一員として経験したことは大きな財産であり、この財産は子どもたちにとっても貴重であると確信しています。将来、子どもたちを連れてジュリアード弦楽四重奏団の演奏会を聴きに行くことが楽しみでなりません。大きな喜びを持って新しいヴァイオリニスト、アリータ・ズッラに後を託します。彼女がこれからジュリアード弦楽四重奏団にもたらすであろう新しい声に、今から心躍らせています」。

アリータ・ズッラは JSQ への加入にあたってこう語る。「物心ついたときから弦楽四重奏が大好きでした。室内楽にどっぷり浸った音楽人生を送りたいと夢見ていました。ロナルド・コープス、ロジャー・タッピング、アストリッド・シュウィーンという素晴らしい音楽仲間と混じって JSQ の一員になるのは名誉なこと、ずっと抱いていた夢が叶ったのです。私はずっと JSQ に憧れていました。JSQ に受け継がれてきた財産、音楽家としての使命はそのまま私自身が信じ大切にしているものと同じですし、何より初めて彼らと一緒に演奏したその瞬間に私には、ここが自分の居場所だと感じました。4人で一緒に、JSQらしい高潔かつ真正な音楽を創っていくのが待ち遠しくてなりません」。

アリス・タリー・ホールは JSQ が長年演奏してきた本拠地のひとつであるが、同ホールでリンがメンバーの一員として室内楽のリサイタルに出演するのは4月12日が最後となる。この日の演奏予定はベートーヴェンの弦楽四重奏曲とジェームズ・マクミランの弦楽四重奏曲第2番『Why Is This Night Different?』。また現在のメンバーと共に今年のタングルウッド音楽祭において若手クアルテットの指導を行い、ラヴィニア音楽祭での6月20日の演奏会をもって JSQ としての活動を終える。ジュリアード弦楽四重奏団の春シーズンの予定は www.juilliardstringquartet.org/concerts まで。

1946年ジュリアード弦楽四重奏団はジュリアード音楽院の当時の学長ウィリアム・シューマンの提唱により創設された。結成メンバーの一人、第1ヴァイオリンのロバート・マンは2018年1月に亡くなっている。JSQ は創設以来72年間、世界各地で演奏を行い、また幅広いレパートリーを録音している。ジュリアード音楽院においても教育者、指導者として重要な役割を担っている。

アリータ・ズッラ(ヴァイオリン) Areta Zhulla, violin

ギリシャで3代続くヴァイオリニスト家系の出身。情熱的で詩的な演奏で注目を集めているズッラはこれまでアメリカ合衆国、ヨーロッパ、カナダ、アジア各国でソリストとして、また室内楽奏者として演奏活動を展開。カーネギーホール、ルーヴル美術館、アリス・タリー・ホール、ケネディーセンター、メトロポリタン美術館、カナダ国立芸術センター等で演奏。リンカーン・センターのチェンバー・ミュージック・ソサエティ II に選出され、数多くの著名アーティストと共演。また、ミシェル・プラッソン、ピンカス・ズッカーマンといった指揮者とも共演している。オルフェウス室内管弦楽団のリーダーを務めカーネギーホール公演にも出演、またメトロポリタン歌劇場オーケストラにてゲスト・コンサートマスターを務めた。

教育活動にも熱心でイツァーク・パールマンのティーチング・アシスタントとしてジュリアード音楽院で教えている。またイスラエルのテルアビブ音楽院で行われている若手ヴァイオリニスト育成ワークショップ、パールマン・ジェネシスプロジェクトの芸術監督を務めている。他にも世界各国でマスタークラスを教えている。父であるレフター・ズッラにヴァイオリンの手ほどきを受け、母国ギリシャでも数々の受賞歴を誇る。ジュリアード音楽院ではイツァーク・パールマン、キャサリン・チョウに師事、学士号・修士号取得。また、ピンカス・ズッカーマン、パティンカ・コペックに師事。